

遺老物語

6

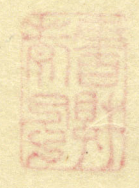
AF  
**JAP**  
1218  
8







大條奥田とて居て上意に趣任候事。概ハ陸奥で常々不  
政石由多山と思ふ。余々度領地を在る。今ハ又宗棟  
事として御目と以て息を代ハ家督を返り。是細宗の隠  
居通塞と作付。御伊達より少補田村隠居。一亀代如少  
明る後見仕由政家法。少少家と云ふ面々。以て与て事。代  
大切とて。之を如言紙で返る。作候り。ハ衆皆降る。事  
果て平伏。一書言紙と書て持上り。事  
一陸奥の候。病身付通塞。之候。度。少の。亀代。大。如  
領地。之。返。り。主。家。来。り。而。て。能。る。事。ハ。一。亀。代。候。大  
切。な。事。光。り。者。凡。万。事。一。合。さ。る。事。ハ。陸。奥。人。法。事。に  
御目忘御仕仕候。事。に。下。り。事。に。事。  
一。乃。忠。事。不。儀。乞。取。表。表。不。心。仕。る。事。に。事。



附不家何財中目付。凡。事。に。事。下。り。後。疎。累。仕。る。事。に。事。  
一。終。り。何。事。儀。仕。置。法。法。度。事。の。執。達。留。仕。る。事。に。事。  
一。万。一。所。隠。居。事。に。事。作。付。候。事。に。事。御。目。他。に。仕。る。事。に。事。  
太。然。事。に。事。雖。も。下。り。於。遠。近。知。悉。と。罪。文。

万治三年

片倉小十郎

酒井雅楽次郎

相馬伊達忠房

原田甲斐

各無事

伊達忠房

稲佐重徳次郎

伊達國房

伊達忠房

奥山大方

其後寛文九年十二月九日。龜代ハ御所。先。服。事。作。付。相。馬  
氏。之。細。宗。御。目。付。事。に。事。相。馬。陸。奥。之。細。基。と。事。付。依。り。又。細。宗。ハ  
其。後。改。め。り。少。補。田。村。法。式。傳。道。ハ。仙。臺。府。中。下。藏。と。唱。候。  
事。に。事。後。見。伊。達。事。に。事。少。補。田。村。法。式。傳。道。仕。置。候。事。に。事。相。馬。中。下。藏。と。唱。候。



芳水と溜心地と月日と送る者多し此時里見十友會  
云々悔て書簡多し少輝と諫ふすう然ふ

一、予、今、將、出、之、多、少、補、核、而、校、驗、能、加、少、也、保、收、院、核、  
步、氣、色、之、為、習、儀、年、之、由、之、為、目、出、度、多、少、然、之、度、極、多、  
核、步、為、之、年、或、後、一、年、度、而、之、年、我、之、未、來、自、得、人、步、行、之、  
時、分、地、步、局、變、之、步、人、所、耕、之、地、誰、之、多、步、核、步、心、之、行、  
以、風、步、側、之、步、積、置、之、步、步、之、核、之、作、之、步、之、為、其、如、此、也、  
恒、禮、之、

士自以

多田重太郎殿  
依木樽をうけ

去尹反 爲一狀 披尺一尺 爲返 報之 爲返 下 其 同 小

旧冬之古ハリ紅芽乳全披見ハ深キヨ  
ル水毎由海堂在ハ紙面保

[illegible]







一 思ふに、  
一 思ふに、

一 思ふに、

一 思ふに、

一 思ふに、

一 思ふに、

一 思ふに、

一 思ふに、

一 思ふに、

一 思ふに、

一 思ふに、

一 思ふに、

一 思ふに、

一 思ふに、

一 思ふに、

一 思ふに、

一 思ふに、

一 思ふに、

一 思ふに、

一 思ふに、

一 思ふに、

一 思ふに、

一 思ふに、

一 思ふに、

一 思ふに、

一 思ふに、

一 思ふに、

一 思ふに、

一 思ふに、











一 牙の底より元中流に元 我の疑心は底に  
不な流にありて

一、遠山勘定役評定役今、お如く役不多く由仕有る其  
其身も役目所、一、二升臺の寸方職を所降、勘定役  
より免許候はる、右条後、  
禁中、  
此上、  
此下

一 侍役目一 堀江 味太 相違 有之 由是 又 寺中 意中 味太 上

一奥山古學後我人より言執權没し付由家と稱し仕  
我世人の歌をよみし由吾辰々今不存多前記後悔し心  
少され滅亡の時より後教ふなり

一其方書也又我亦一評  
之買米一升之方好而入  
衆小性以元一我亦疑心  
方之好者一其方好而入  
衆小性以元一我亦疑心  
方之好者一其方好而入  
衆小性以元一我亦疑心



一 持上りて付其方立服し

一 奥山大學要儀伊賀新太郎と其方兩人我よりす

一 右より大學要儀伊賀新太郎と其方持上りし

五月六日

里見十左衛門

一 右より里見八左衛門要儀伊賀新太郎と其方兩人我よりす

一 奥山大學要儀伊賀新太郎と其方持上りし

一 右より里見八左衛門要儀伊賀新太郎と其方兩人我よりす

一 奥山大學要儀伊賀新太郎と其方持上りし



















心解るる後、  
承安五年、  
許さる念を  
一、  
可き言上、  
四月四日

原田甲斐

里見十九

退て、  
一、  
一、  
仕、

後

一、  
若、  
一、  
偽、

寛永

里見十九

原田甲斐

一、  
評、  
安、











依ふ者古ハ依ふ者遠き仕ハ受て不敗との概とあるハ  
月おりの金と依ふ仕人 なるもの概と依ハ改る。お加り  
不ハ受て子細と不なる如新なり谷原偏ありふ  
志笑古集と溪田と今村と又横濱江志ハ其方と古紙  
ハ其方と古集と依ハ其方と改る。お加り其方と古  
谷原と又ハ依ハ其方と改る。改る。お加り其方と古  
と依ハ其方と改る。改る。お加り其方と古  
整仕ハ依ハ其方と改る。改る。お加り其方と古  
大井 鄭と依ハ其方と改る。改る。お加り其方と古  
ハ其方と依ハ其方と改る。改る。お加り其方と古  
ハ其方と依ハ其方と改る。改る。お加り其方と古  
ハ其方と依ハ其方と改る。改る。お加り其方と古  
富整と科。申付ハ其方と改る。改る。お加り其方と古

一 伊藤宗也ハ其方と依ハ其方と改る。改る。お加り其方と古  
内子七下之と依ハ其方と改る。改る。お加り其方と古  
氏ハ其方と依ハ其方と改る。改る。お加り其方と古  
ハ其方と依ハ其方と改る。改る。お加り其方と古  
ハ其方と依ハ其方と改る。改る。お加り其方と古  
ハ其方と依ハ其方と改る。改る。お加り其方と古  
ハ其方と依ハ其方と改る。改る。お加り其方と古  
ハ其方と依ハ其方と改る。改る。お加り其方と古  
ハ其方と依ハ其方と改る。改る。お加り其方と古  
ハ其方と依ハ其方と改る。改る。お加り其方と古

一 小梁川と依ハ其方と改る。改る。お加り其方と古  
科ハ其方と依ハ其方と改る。改る。お加り其方と古  
守評定と依ハ其方と改る。改る。お加り其方と古  
ハ其方と依ハ其方と改る。改る。お加り其方と古



一茂元大藏と山崎宗鑑と  
中興義理ありて是  
穿鑿の上大藏  
とハ事及後にも故あり不  
語故に遍塞りけり  
予をんとして  
郡代役を故より不  
問下け又遍塞り  
けり以て一より  
衆多なる富四  
又遍塞堀九  
宗良坂通なる進退  
故に侍四人  
寺入りけり  
あり大藏ハ  
老職仕茂元  
因縁ありて  
正宗忠宗代  
と評人  
らに當り  
老い  
て  
多

一、田部監より中務省奥の一族を、番及び佐名進退に叙せしめ、後、丹波永沼長子とて、進退に叙せられ、玄寂切腹し、分りたる所、斬断切腹或進退に叙せ、或過塞寺入り、分りたる所、及志士十人、余等以て之なり。

一 家老職と志士とを以て補親疎傳の隆奥と爲す不<sub>レ</sub>宜<sub>ニ</sub>口付  
當時は家老も一任仕目する所が勤<sub>ニ</sub>口と内々より金<sub>セ</sub>祚

久々企り中形急ぎに去月八日付口邊仕度、及て口邊

一谷系に依る多隱岐方より檢使を以てしむる由に申上る所と  
書面より上りしとす

[illegible]

寶久十一年二月  
進上  
所奉以所

何進安墓宗室判



隆興寺 洞基 後改 網村 後見伊達より少輔宗徳田村隠岐より家  
 良の家申す仕置ぬ道ある仙ある中敷多 隆興寺にありす  
 者ふし是の洞基一族ある宗徳に後と云く歎き宗徳と云  
 く隆興寺と云ふは洞基に上ハ江戸へよりある洞と云く言上り家  
 中ハ隆興寺と鎮と云ひ一面ハ所状と云ふなり依り板  
 倉内膳正殿申定まてしを但し殿列せあり所状被えあり  
 蔵と云ふとて其以後洞村ある宗徳田外記系田甲田ある人  
 在り洞村殿あり仙ありあり在り名所と云ふなり在り酒井  
 雅正殿あり申定まてしを但し殿列せあり所状被えあり  
 大井新殿ありある人ある宗徳よりある一人在り呼ぶ口席  
 ありある洞村殿あり伊達宗徳と系田甲田ある人 合意なり

論儀略、依る家老も通わし、次問の所口口時系四ハ悪し露頭  
 最科難道是傳の安藤之と加ふと思ひ重てト共支右と  
 中若中此處の其儀立向何いふ細二下一在飛と二カ切多机  
 者中前へ出て掛り此田外記見る系田と一太刀切原田不疼外記  
 と係より度きなり奥則字書峰をうたふ長席に居たりは是掛り  
 系田と記ありたり此時雅兵衛系杉名田係をのさ田松名物系第  
 為る法士中、馳あし秋味とそふ知被乞と月清六九  
 馬切ん蟻や係より度き原因之突致す時々蟻田中則馳か甲  
 契と切たり古由志八代後と不知若中、おまね其場  
 石田合初論候もの等皆系田十おまね撫部志大いふ立寄退也  
 忽ち中靜濫する系田係よりなかり系中と渡動さむる事  
 日取次、雅兵衛定まは流曉の系中、定まるる事











原田宗女六歳

系田伊織二歳

吾二人ハ甲斐文ヲ除キ又ハ之ヲハシテ我輩更ニ領地平定トシ  
而テ教寸授役賜ハシテ思ハル所如ク月村氏等亦ハ之ヲ

一系四帶乃之妻五娘一人乃是八歲處周防之弟

一甲班文子畫伊達上野一

一甲斐、母倅迄千代松、  
新後三郎宮子

一 殷投書以妻五娘入古園之橋之

一版按如雲如仙如蓮  
寒山竹

一平戶屋敷松田氏より此の人頭門下付

三人ハ甲斐より子  
 孫子也  
 此  
 乃  
 儀  
 上  
 上

受てり

一千五百貫

原田常乃妻兄

後度  
三

一八五

原田甲斐書

津田玄葉田

一三〇

玄之又玄

陸田七ノ助

—

玄女叔父隱所

三泉布月

一二百

子泉長門

吾知後金主必不許親王  
皆遠科二

一 後、金之財、  
七 也、  
也、

一曰人曰男片山亦之也 金之也 寧<sup>ハ</sup>時<sup>ハ</sup>也 於<sup>ハ</sup>也

一曰人聲四村內務女二格費似又令之此則聲南宗也

一日人甥二人牧豕求馬 卒也八年

一日人婦聲平野浪之金之婦聲福之

あゝお人あり畧す竹葉追放閑つ逼塞——清静

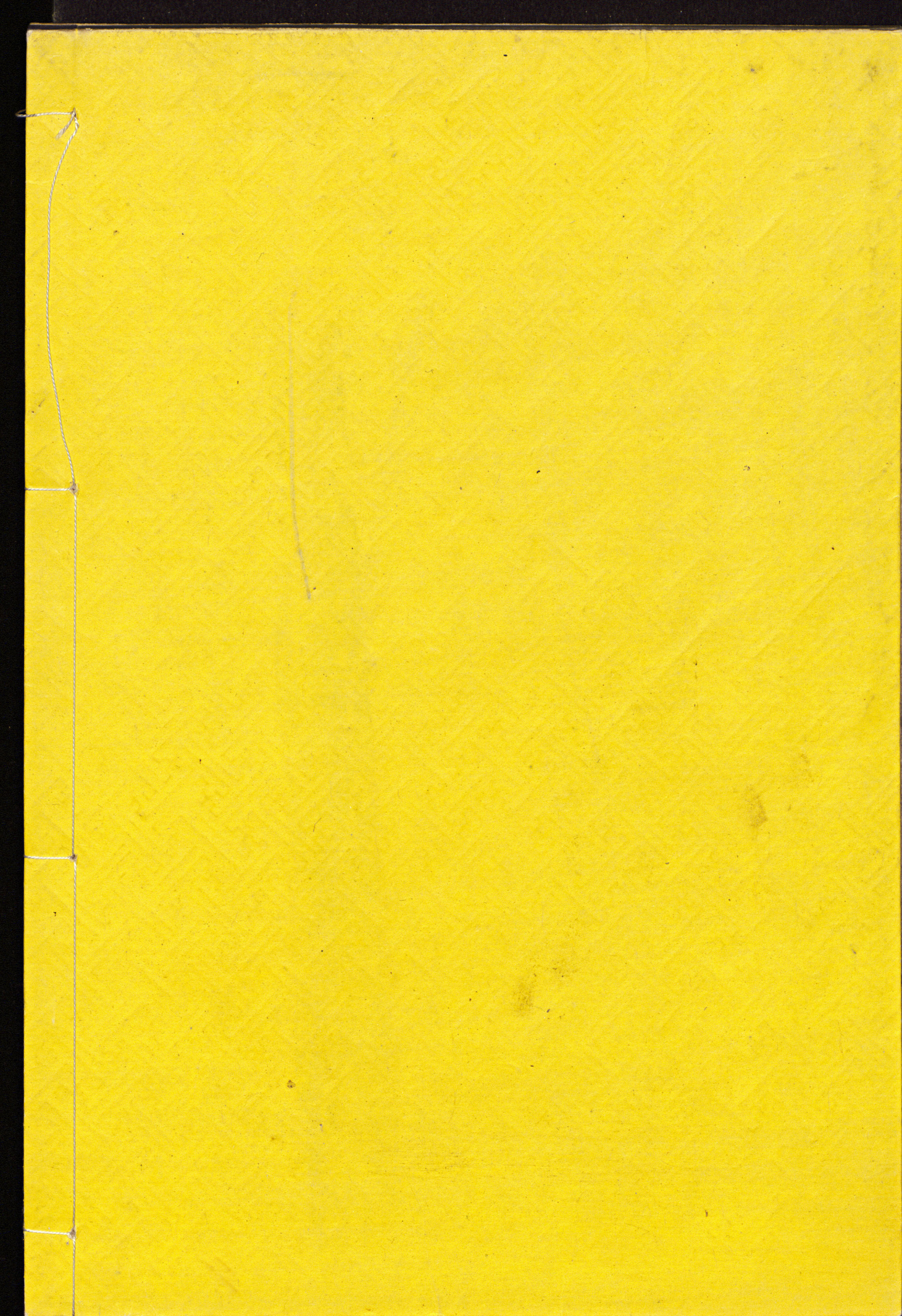






[illegible]









H+K 2

GretagMacbeth™ ColorChecker Color Rendition Chart

15.01.2002